

カリキュラム(6H)

機構施設名： 和歌山職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社日本能率協会コンサルティング

A. バックオフィス	AI(人工知能)活用
新技術活用	

コースのねらい	AI(人工知能)の概要とビジネスの現場におけるAIの具体的な活用場面等について理解し、AI活用に係る知識を習得する。
---------	--

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)
	1	AI(人工知能)の概要	イントロダクション (10分) ・研修のゴール設定 ・進め方(ファシリテーター等)の説明、自己紹介、役割分担 1.AIの基礎知識(50分) ・AI(人工知能とは) ・機械学習、ニューラルネットワーク、ディープラーニング 2.AIがどのように活用できるか(30分) ・講義より、AIの活用イメージを検討(演習)、結果を全体で共有 3.AIを活用したい自社の業務検討(90分) ・業務における課題管理(講義) ・問題点洗い出しから、課題の検討(演習) ・グループで検討する優先課題を決定(ワークショップ:以降WS) ・課題解決にAIを活用するイメージを検討(WS) 検討内容を共有 ・手段としてのAIを活用するために必要なスキル(講義)
2	AIの活用事例と今後の展望	4.建築業等でのAI導入事例紹介(60分) ・AIの具体的な活用事例照会、AI導入の課題(講義) 5.AI導入のステップ(90分) ・課題解決策と達成基準、解決策の評価について説明(講義) ・AI導入に必要なステップの説明(講義) ・先程の課題へのAI活用イメージを、事例等から具体化(WS) ・グループの検討結果を共有 6.AIの今後の展開と本日の振り返り(30分) ・AIの今後の展開(講義) ・AI活用に向け、参加者自身がどのような取組をするか(演習) ・参加者の取り組み内容を共有 ・振り返り	3.0
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
全体として、ワークショップを充実させ、他者の考えなどから一人では思いつかないような業務課題解決へのAI活用に向けた気付きを得る事に重点をおく 講義ではキュレーション等具体的な情報収集方法も説明、WSでは、道具としてのAI活用に向けて問題から課題管理の重要性を体験 【AIの事例】では、建設業を中心とした、研修先の事業を視野に具体的な事例を提示、WSを通して自社へのAI導入を模擬体験

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用)	●機器・ソフトウェア(講師用・その他)
	・PC(講師用)
●使用するテキスト	●その他
・オリジナルテキスト	4~5名1グループでのグループワーク用: (JMACにて用意)模造紙、付箋、A4用紙、水性マジック

利用事業主に用意をを求める機器等	備考
・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード・ホワイトボード用マーカー	